



連

携

室

だより

● ● ● 目 次 ● ● ●

- P2 新たな地域連携の構築
～地域におけるチーム医療を目指して～
- P3-5 新診療部長挨拶
・総合診療科
・形成外科
・第二泌尿器科
・第二救急科
- P6 医療技術部紹介 病理課
- P7-8 新任医師のご紹介
- P8 退職医師のお知らせ

■理 念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し、質の高い医療を提供します

■基本方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
2. 急性期医療を中心にして診療を進めます
3. 救急医療の充実に努めます
4. 地域の医療機関等との連携を推進します
5. 国内外の災害時の医療救援活動に貢献します
6. 職員の教育、研修を充実させます
7. 健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

■私たちは患者さまの権利を尊重します

1. 適切な医療を受ける権利
2. 医療に関して知る権利
3. 医療行為を自分で選ぶ権利
4. プライバシーを保証される権利
5. 人権を尊重される権利
6. セカンドオピニオンを受ける権利



「天空の一本道（愛別岳山行）」当院写真部



新たな地域連携の構築 ～地域におけるチーム医療を目指して～

院長 牧野 憲一

旭川赤十字病院は昨年創立から100年という節目の年を通過しました。今年は新たな100年のスタートラインに立つわけです。

次の100年に向けての第1歩として新たな地域連携をスタートさせることにしました。それは、地域におけるチーム医療の推進です。従来の連携の基本は患者さんの紹介・逆紹介でした。このような連携形態は、患者さんの生活がもともと自立していて社会活動を行っていることが前提でした。地域の基幹病院が患者さんの紹介を受け、検査し治して社会に帰って頂く、その後の通院治療が必要な場合に元の医療機関に逆紹介するといった連携でした。ところが、超高齢化社会の中で自立していない患者さんが増えてきています。多くの疾患を抱え、病気を一つ治したとしても社会に復帰できないことが当たり前になってきています。このような社会で基幹病院の専門医だけで患者さんの診療はできません。患者さんの全体像を診る医師が必要です。患者さんの疾患のみならずその身体的、精神的、社会的、地域的な背景も考慮して診療して頂ける医師です。日常的に患者さんが繰り返し通院し、身体管理を行っている医師がそのような役割を担っています。私たちはこのような医師を「かかりつけ医」と考えています。従来型の、紹介・逆紹介に限定された地域連携では「かかりつけ医」に必要な情報が提供されていませんでした。それは「かかりつけ医」から紹介を受けないで他の医療機関から紹介を受けることが少なくないからです。眼科や耳鼻科、泌尿器科などの専門領域の診療科への紹介の多くはそれぞれの科を標榜する開業医です。この場合、内科医である「かかりつけ医」は何も知らないままにその患者が入院し治療が行われ退院していきます。再びその「かかりつけ医」を訪れた際には何の情報もありません。高齢で自分の病状をしっかり説明できない患者本人が入院の詳細を説明できないでしょう。

旭川赤十字病院では新たな試みとして、「かかりつけ医」に入院に関する情報提供を行うことになりました。患者さんが定期的に通院して投薬を受けている内科系の医療機関を対象とします。その医療機関からの紹介の有無にかかわらず入院・退院の通知を発送します。また、退院サマリーの送付も行います。伝達手段としてはたいせつ安心i医療ネットのメール機能を利用することを想定していますが、未加入の医療機関には他の連絡方法も検討しています。しかし、FAX等では誤送信等セキュリティー上の問題がありますので、可能な限りたいせつ安心i医療ネットへの加入をお願い致します。また、たいせつ安心i医療ネットに加入頂けますとメール機能により気兼ねなく当院の専門医に連絡をとることもできます。

旭川赤十字病院では、「かかりつけ医」を中心とした新たな地域医療、地域におけるチーム医療を進めたいと考えています。人々が安心して暮らせる地域づくりのためご理解とご協力をお願い致します。

新

診療部長挨拶



一緒に健康問題の解決の糸口がつかめるような 診療を行いたい

総合診療科

黒島 研美

○出身大学

旭川医科大学（平成7年卒）

○資格・認定・指導医等

日本神経学会専門医・指導医
日本内科学会認定医
日本頭痛学会専門医・指導医
プライマリ・ケア認定医

この度、2016年4月1日付で総合診療科部長を拝命いたしました。

私は1995年に旭川医大を卒業し、直後に北海道大学医学部神経内科に入局し、以後は神経内科医として研鑽を積んでまいりました。その過程の中で今の初期研修の体制とは全く異なる時代に、田代邦雄初代神経内科教授の御指導のもと、複数の病院で現在の初期研修に相当する時期に麻酔科、救急医療部、神経放射線科、循環器科、消化器科の研修をさせていただきました。神経内科医は医師としての総合力を身につけることが必要であるとのお考えのもとであったと感じております。

また、これまでの医師としての約20年間の臨床現場の中で、どこに行ってもわからない、検査をしても問題ないといわれる方が神経内科にたどり着き、解決の糸口を見いだせた、あるいは「よくわからないので」と御紹介いただいた方が、最終的に神経内科疾患ではなかったものの、診断から治療に結びついたケースを多く経験しております。そのような当科の診療内容を鑑みて、牧野院長からの総合診療科部長への就任要請が神経内科医である私にあったものと考えているところです。

神経内科と総合診療科の二足の草鞋をはいた状況となっており、どちらも片手間にできることではないことを重々承知しておりますが、地

域の皆様の健康問題の解決に貢献できるよう努力してまいる所存です。

病態がはっきりしないなど紹介先に迷うような方がいらっしゃいましたら、ご紹介をいただければ幸いです。まずは、目の届く範囲、手の届く範囲で時間をかけて診療を行えるようにと、紹介のみ・完全予約制での診療を開始いたします。受診を希望される方にはご不自由をおかけしますが、その分ゆっくりとお話を伺い、一緒に健康問題の解決の糸口がつかめるような診療を行いたいと考えております。

神経内科吉田副院長の理解と応援のもと、私と同様に日本プライマリケア連合学会認定医の資格を有する神経内科浦部長、当院で初期研修を終え、後期研修医としてますますの成長を期待される土田医師とともに、規模は小さくても地域の皆様の信頼を得られるような診療を行っていきたいと考えております。

現在も、これからも私の本業は神経内科医です。神経内科疾患の分野においては、自信を持った診療を行っておりますが、総合診療科のとしては経験も乏しく、連携医療機関の先生方に逆に教えていただかなければならぬ場面も多いかと存じます。旭川赤十字病院総合診療科を地域の連携医療機関の皆様にもともに育てていただければ幸いです。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

総合診療外来のご案内

当院では平成28年4月1日より総合診療外来の診療を開始致しております。是非ご活用ください。

○診療日時 毎週月・水・金曜日 午前9時から午前10時まで

○対象疾病 どの診療科へ紹介するか不明確な場合。

※担当医の判断により、各専門科での診療となる場合があります。

地域医療連携室経由の完全予約制となります。

専用の診療予約申込書にてお申込みください。

※診療予約申込書は以下からダウンロードできます。

旭川赤十字病院のホームページ→医療関係の方へ→地域医療連携室

→診療予約→専用用紙はこちら



「形成外科・創傷治癒センター」として 信頼される診療科を維持したい

丹代 功

○出身大学

札幌医科大学（平成9年卒）

○資格・認定・指導医等

日本形成外科学会認定専門医

日本熱傷学会認定熱傷専門医

皮膚腫瘍外科指導専門医

ICD（インフェクションコントロールドクター）

～あゆみ～

2016年4月より形成外科部長という役職を務めさせていただきます。

私は1998年から旭川赤十字病院に勤務し、今年で勤務19年目になります。私が赴任した同年、札幌医科大学に形成外科講座を開設し、助教授として札医大形成外科を背負ってきた阿部清秀先生もまた当院に赴任してきました。その後、阿部先生の元に大学に劣らない様々な疾患の患者様が道北各地から集まり、私は十数年にわたり阿部先生の厳しくも熱心な御指導を受け、多くの手術を経験し今日に至ります。

～孤軍奮闘のいま～

当科は元常勤医4人でしたが、定年や開業などの退職で2014年末より常勤医は私1人です。しかし、従来通りの診療に変わりなく、多少無理をしても手術数を維持しています。なぜなら旭川市を含む道北には、夜間休日に重症救急患者を受け入れる形成外科のある病院は当院しか無いからです。旭川医科大学にも形成外科が無く、当科が持ちこたえることが出来なければ、道北の形成外科関連の治療が滞ります。従って1人体制でも救急患者は可能な限り受け入れ積極的に緊急手術を行い、手を引くことはしません。まさに「孤軍奮闘」で、手術の合間に食事もようやくという日々ではあります。しかしこの極限状態での診療維持は、支援非常勤医師や外来、病棟、手術室スタッフの御協力のおかげであり、深く御礼を申し上げます。

～当科の診療～

関連疾患としては、難治性潰瘍や褥瘡、壞疽、広範囲熱傷、皮膚・軟部組織の悪性・良性腫瘍と術後再建、眼瞼加齢性変化と障害（眼瞼下垂、内反など）、手足の先天奇形、外傷による軟部組織損傷、顔面骨骨折など様々です。さらに抗加齢用レーザーなどの新たな導入もあります。これら多くの手術件数や診療で日本形成外科学会認定施設、及び日本熱傷学会認定研修施設を維持しております。

従って、今後当科に勤務する若い医師は日本形成外科学会専門医、皮膚腫瘍外科分野指導医、日本熱傷学会専門医などの資格が取得可能です。

～未来への構想～

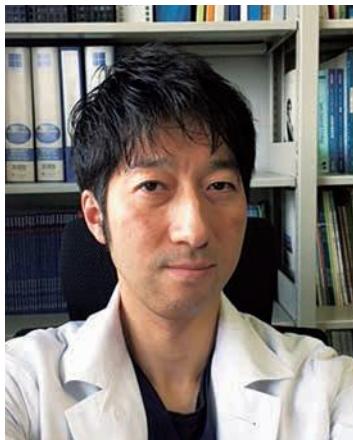
当院は日本一広い守備範囲を有したドクターヘリの拠点病院として、北は稚内市や利尻・礼文島、西は留萌市や羽幌町、南は富良野方面より外傷などの救急搬送や患者紹介があります。特に広範囲熱傷の治療可能な熱傷専門医常駐の日本熱傷学会認定研修施設は道北で唯一当院だけであり、形成外科領域の北方の要としての役割を担っています。従って、外傷・創傷治療における道北地域での当科の中心的役割から「形成外科・創傷治癒センター」と名称変更したいと個人的に考えております。

今後は若手形成外科医師を増やし、他病院との連携を充実させ、さらには旭川市内の数少ない形成外科クリニックとの関係を構築したうえで、道北地方の主たる「形成外科・創傷治癒センター」として信頼される診療科を維持したいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

★こちらもご覧ください★

病院ホームページでは、各診療科についての紹介ページを設けてあります。形成外科のページでは形成外科に関するQ&Aや対象とする疾患、当院の実績、診察案内などが掲載されております。是非ご覧ください。

・旭川赤十字病院ホームページ
<http://www.asahikawa.jrc.or.jp>



3月よりTUEBを開始。より質の高い医療の提供を目指す

清水 崇

第2泌尿器科

○出身大学

札幌医科大学（平成11年卒）

○資格・認定・指導医等

医学博士

日本泌尿器科学会認定専門医・指導医

日本がん治療認定機構がん治療認定医

日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医

この度、2016年4月1日付けで第2泌尿器科部長を務めることとなりました清水崇と申します。1999年札幌医科大学卒業で、2005年にも1年間旭川赤十字病院で勤務していたことがあります。昨年4月、約10年ぶりに旭川赤十字病院で再び勤務する機会を戴きました。大学院では、膀胱癌発生に関するマイクロRNAのメチル化についての研究を行い、学位を取得しております。

当科では、前立腺癌、膀胱癌、腎癌、腎盂尿管癌など尿路悪性腫瘍症例を多数、特に近隣の開業医の先生方からの紹介していただき、治療しております。T2以下の腎癌については原則腹腔鏡手術を行う方針としております。また、小径腎癌に対しては、術後の腎機能温存を目指して、積極的に腎部分切除術を行っており、可能な症例は腹腔鏡下腎部分切除術を行うことにより低侵襲手術を目指しています。一方、進行した膀胱癌や腎盂尿管癌に対しては、積極的に術前化学療法を施行しており、治療成績の改善を期待しています。また、当院は救命救急セン

ターを併設しているため、市内および近隣の市町村のみならず、遠方からも結石性腎孟腎炎症例を紹介される機会が少なくありません。結石性腎孟腎炎は敗血症性ショックになることも少なくないため、麻酔科医師と協力してHCUなどで全身管理を行っております。

当科では昨年まで、前立腺肥大症に対する手術療法として、経尿道的前立腺切除術（TUR-P）を行っておりましたが、今年3月からは、より低侵襲かつ根治的な前立腺肥大症手術を目指して、経尿道的前立腺核出術であるTUEBを開始しております。TUEBでは、術中および術後の出血が少なく、大きな前立腺肥大でも安全に手術可能です。

当科は現在、堀田裕泌尿器科主任部長、今年4月から赴任した鶴渕敦医師と私の3人体制で診療を行っております。昨年、当科では、1年間で550件以上の手術を行いました。今後もより質の高い医療を提供できるよう努力して参りますので、よろしくお願ひいたします。

重症患者管理の面で地域医療に貢献を

飛世 史則

第2救急科

○出身大学

札幌医科大学（平成11年卒）

○資格・認定・指導医等

麻酔科標準医

日本麻酔科学会指導医

日本集中治療学会専門医

日本心臓血管麻酔学会経食道心エコー認定医



この4月から旭川赤十字病院に赴任いたしました飛世史則と申します。麻酔、集中治療、救急を主な専門分野としております。3月まで市立旭川病院に勤務しておりましたが、このたび6年3か月ぶりに旭川赤十字病院に戻ってまいりました。久しく3次救急の現場から遠ざかっていましたが、1日も早く勘を取り戻し救急・

地域医療に貢献したいと思っております。麻酔科では手術を受けられる患者様に対し、良質な麻酔を提供できるよう日々努力を続けております。また麻酔科は救命救急の現場や集中治療における全身管理を得意としておりますので、重症患者管理の面で地域医療に貢献できればと思っております。よろしくお願い申し上げます。

病理課

医療技術部紹介

今日、病理診断は日本人の死亡原因第1位である悪性腫瘍をはじめとする多くの疾患の診断に欠かせないものであり、治療経過をモニタリングする上でも重要なものです。私たち病理課は、病理診断を支える技術部門であり、病理診断科の病理専門医2名のもと、臨床検査技師5名（うち細胞検査士4名）、作業員1名で日々業務を行っています。

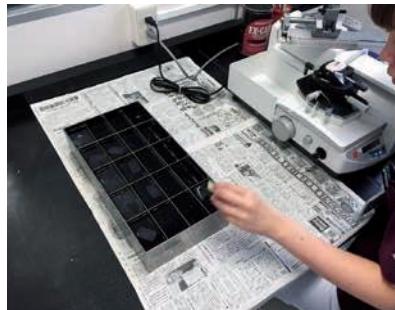
今回は、その病理課の業務内容をご紹介します。

1. 病理組織検査

顕微鏡で生検や手術時に摘出された臓器の組織診断を行うための標本を作製します。まず、患者さまから採取された組織はただちにホルマリン固定されます。固定された組織は、病理医が診断に必要な部位を切り出し、適切な大きさにトリミングした物を、パラフィンという蝋燭の原料となるもので固めます。スライド標本にするには、組織を通常 $2\sim5\mu\text{m}$ という薄さで切っていく必要があるため、パラフィンで少し強度を持たせ切りやすくします。そして、ミクロトームという装置を使って薄く切った組織をスライドガラスに貼り付けて乾燥させます。最後に、ヘマトキシリン・エオジン染色という染色法で、顕微鏡で観察しやすいよう染色します。

採取された組織はこうしたいくつかの工程を経て標本になり、病理医により診断が行われます。さらに、必要に応じて、診断補助として各種特殊染色や抗原抗体反応を利用した免疫組織化学染色、ならびに核酸のハイブリダイゼーションを利用したISH（in situ hybridization）なども行います。当課では100種類以上の抗体を揃えており、多くの組織診断に役立っています。

その他、休日・時間外を問わず術中迅速病理診断も行っており、組織検体提出から15分程度で組織診断

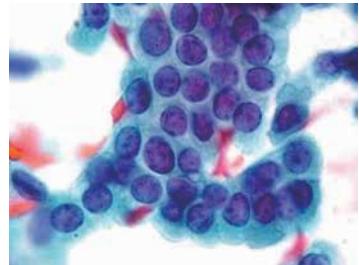


ミクロトームで組織を薄く切り水槽に浮かべる作業

が可能です。

2. 細胞診検査

主に悪性細胞の有無を調べます。細胞検査士の資格を持つ検査技師により、尿・喀痰中の患者さまから自然に剥離してきた細胞や、子宮頸部・内膜など擦過採取させていただいた細胞、時には甲状腺・リンパ節穿刺など能動的に採取させていただいた細胞で標本を作成し、観察（スクリーニング）を行います。婦人科以外の陰性症例とその他陽性症例は病理専門医のチェックを受けた後に報告されます。婦人科陰性症例は別の細胞検査士のダブルチェック後、陰性が確認された後に報告されます。



顕微鏡で見た細胞像

3. 病理解剖

不幸にしてお亡くなりになられた方の死因や治療効果判定等の目的で行います。24時間体制で行っており、病理課は主に解剖の介助を行います。

このように病理課の業務は大きく3つに分けられます。病理医の病理診断によって患者さまの診断が確定し、手術の必要性や投与する薬剤の選択など治療方針が決まっていきます。その正確な病理診断には適切な標本作成や検体処理の知識・技術が不可欠であり、コントロールサーベイ等、外部精度管理にも積極的に参加しその維持・向上に努めています。さらに、当課は2015年1月より、生検材料を主とした病理組織診断の受託を行っており、連携施設の皆様には、迅速かつ信頼性の高い診断を提供できるよう体制を整えております。詳細は旭川赤十字病院のホームページに掲載しております。今後も、病理課一同、地域医療に貢献できるよう努力していきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

注：病理課は技師と作業員。病理診断科は医師2名で構成されています。

新任医師のご紹介

(平成28年4月付)

質問 項目

- ①診療科
- ②取得指導医・専門医等
- ③卒業年度
- ④地域医療機関の先生方へ一言！



ミヤシタ リョウ
宮下 龍



- ①麻酔科副部長
- ②医学博士、日本麻酔科学会指導医・専門医、日本心臓血管麻酔学会専門医
- ③平成13年度
- ④麻酔、救急、集中治療の分野で貢献できればと存じます。御指導の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。

モチヅキ ヒロキ
望月 宏樹



- ①麻酔科
- ③平成17年度
- ④出身大学は旭川医科大学であり、4年前にも当院で働いており2回目の勤務となります。当院麻酔科は救命センターや道北ドクターへりなどで近郊の医療機関の先生方にはたくさん協力をお願いすることだと思います。何卒よろしくお願いいたします。

イガキ ユウスケ
井垣 勇祐



- ①腎臓内科
- ③平成23年度
- ④至らぬ所が多く、御迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願い致します。

サイトウ アツシ
齋藤 敦



- ①消化器内科
- ③平成23年度
- ④まだまだ未熟で、皆さんにご迷惑をおかけすることもあるかとは思います、ご指導よろしくお願い致します。

ワニフチ アツシ
鶴渕 敦



- ①泌尿器科
- ③平成23年度
- ④旭川は初めての赴任になります。丁寧な診療を心掛けたいと思います。宜しくお願いします。

オサナミ アラタ
長南 新太



- ①循環器内科
- ③平成24年度
- ④札幌医大出身の長南と申します。旭川・地域の患者様に少しでも貢献できるよう努力して参ります。何卒、宜しくおねがい申し上げます。

ツチダ タクミ
土田 拓見



- ①神経内科・総合診療科
- ③平成25年度
- ④患者様の御紹介お待ちいたしております。また、紹介させていただく際にはよろしくお願い申し上げます。

クラマエ タロウ
藏前 太郎



- ①外科
- ②日本外科学会専門医
- ③平成8年度
- ④外科一般をやっています。専門はありませんが、こしづらくは消化管を中心に行って参りました。当院では主に腹腔鏡手術を中心に行っていきたいと思います。

コダマ モエ
児玉 萌



- ①麻酔科
- ②日本麻酔科学会認定医、麻酔科標榜医
- ③平成22年度
- ④不慣れな点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一杯頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

オカモト ミチナリ
岡本 迪成



- ①脳神経外科
- ③平成23年度
- ④若輩では御座いますが、全力で診療にあたらせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

サトウ チカ
佐藤 智香



- ①神経内科
- ②日本内科学会認定内科医
- ③平成23年度
- ④脳卒中後や変性疾患の患者さんなどのことで、たくさんお世話になると思います。何とぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

イトウ カエ
伊藤 佳永



- ①心臓血管外科
- ③平成24年度
- ④専門研修を始めたばかりです。大学病院にはない症例を経験しながら、1歩ずつ前へ進んでいきたいと思います。ご指導宜しくお願ひ申し上げます。

カヤバ コウタロウ
萱場 幸太郎



- ①整形外科
- ③平成25年度
- ④先生方には多大な御迷惑をおかけすることとは思いますが、懲りずに御指導御鞭撻頂けましたら幸いです。宜しくお願ひ申し上げます。

ミヤザカ ユキ
宮坂 友紀



- ①呼吸器内科
- ③平成25年度
- ④まだまだ未熟ですが、一歩ずつでも前に進めるよう日々の診療から学び、誠心誠意取り組みたいと思っております。よろしくお願ひ致します！

<p>小野 賢人</p> 	<p>①臨床研修医 ③平成27年度 ④将来は色々な地域で働きたいと考えています。お会いした方はぜひご指導のほどよろしくお願ひいたします。</p>	<p>小泉 富基</p>  <p>①臨床研修医 ③平成27年度 ④今年度から初期研修医として研修しております。地域の医療機関の先生方にも色々とお世話になることがあると思いますので、どうかよろしくお願ひします。</p>
<p>神 未央奈</p> 	<p>①臨床研修医 ③平成27年度 ④将来地域でお世話になる際にはご指導のほどよろしくお願ひします。</p>	<p>竹中 淳規</p>  <p>①臨床研修医 ③平成27年度 ④北海道大学出身の竹中淳規と申します。精一杯頑張りますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願ひ致します。</p>
<p>田中 大貴</p> 	<p>①臨床研修医 ③平成27年度 ④北海道大学医学部卒の田中大貴と申します。2年間の研修を通して多くのことを学び、少しでも皆様のお役にたてればと思います。よろしくお願ひいたします。</p>	<p>東嶋 宏泰</p>  <p>①臨床研修医 ③平成27年度 ④医師1年目で右も左も分からぬ若輩者ですが、感謝・謙虚・積極性を持って日々研鑽して参りますので、御指導の程よろしくお願ひ申し上げます。</p>
<p>増田 拳</p> 	<p>①臨床研修医 ③平成27年度 ④地域医療に携わりたいという気持ちで頑張っていきます。よろしくお願ひします。</p>	<p>松田 亜依</p>  <p>①臨床研修医 ③平成27年度 ④旭川赤十字病院のような、地域に根付いた素敵な病院で働くことを大変嬉しく思っています。1日も早く、患者様や地域の医療者の皆様の役に立てる日が来るよう、頑張っていきたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。</p>
<p>水島 慶一</p> 	<p>①臨床研修医 ③平成27年度 ④旭川は本当に寒い場所であると身をもって実感する日々ですが、負けずに1年間頑張ります。よろしくお願ひします。</p>	<p>安田 肇宏</p>  <p>①臨床研修医 ③平成27年度 ④地域医療に関わる皆様のお役に立てるよう努力致しますので、よろしくお願ひ申し上げます。</p>

退職医師のお知らせ

氏名	診療科	氏名	診療科		
南波 仁	麻酔科（診療部長）	平成28年3月31日付	大野 翔	麻酔科	平成28年3月31日付
浅野 剛	脳神経外科	平成28年3月31日付	伊原 彩季	麻酔科	平成28年3月31日付
安孫子剛大	外科	平成28年3月31日付	神山 直之	循環器内科	平成28年3月31日付
須藤 悠太	呼吸器内科	平成28年3月31日付	木村 幸滋	腎臓内科	平成28年3月31日付
村田 宗平	整形外科	平成28年3月31日付	長沼 亮滋	神経内科	平成28年3月31日付
池端 良紀	泌尿器科	平成28年3月31日付	武内 優太	外科	平成28年3月31日付
葉山 洋子	麻酔科	平成28年3月31日付			

訂正とお詫び 連携室だより第26号8ページの「平成27年度に開催した研修会、検討会をご紹介します」内の第16回医療機関職員研修会の演題1「誤嚥を予防するポジショニング」の実際の演者のお名前を「蟹谷 和子」と記載しましたが、正しくは「田中 亮一」です。訂正してお詫びいたします。

発行／旭川赤十字病院
地域医療連携室

〒070-8530
旭川市曙1条1丁目1番1号 TEL:0166-22-8111（代表）
FAX:0166-22-8287（直通）
E-mail:renkei@asahikawa.jrc.or.jp